

■台湾：新しい原子力政策を発表

馬總統は2011年11月3日、新しい原子力政策を明らかにした。これによると政府は、建設中の龍門第4原発（270万kW：135万kW×2基：ABWR）の運転開始前に広範囲の試運転を行い全ての安全要件を満たすことと3つの既存発電所の40年の運転寿命を延長しないことを約束している。最も古い金山原発2基は2018年と2019年に廃止が予定され、既存の3カ所の原発は段階的に廃止されることになり、施経済大臣は、「金山発電所の2基は第4発電所が2016年までに運転開始する場合、このスケジュールよりも早く運転を止めることになるだろう。また、政府は延期された第4発電所の運転開始時期と改良作業に係る正確な予算額を来年早い時期に発表する予定」と述べた。野党は第4発電所の稼働に反対しており、2025年までに全ての原子力発電所の廃止を主張している。このため、原子力問題が2012年1月に実施する総統選挙の焦点になる見込みである。